

8月
2022年

158号

地域共創・未来共創の大学へ

広 報

沖縄大学
OKINAWA UNIVERSITY

発行

沖縄大学経営企画室

〒902-8521 沖縄県那覇市字国場555

☎ 098(832) 2910

<http://www.okinawa-u.ac.jp>

地域の未来のため
健康栄養学部一学期生、
がんばってます！

〈学長コラム〉

『沖縄の未来を担う 管理栄養士育成に全力』

(学長 山代 寛)

健康栄養学部管理栄養学科は、いよいよ今年、完成年度を迎えます。一学期生は4年生となり、5月から臨地実習(学外での実習)に取り組んでいます。

臨地実習は管理栄養士に求められる様々な業務に関する実践能力を修得するための、まさに実践教育科目です。大学で習得している専門的知識と技術を統合し、管理栄養士として必要な資質を身に付けられるように、多くの施設の協力を得ながら行われています。

まず、夏休みまでに「給食運営」実習として、学校22施設33名、病院等(病院、特別養護老人ホーム、介護老人保健施設などの福祉施設、学生寮食堂、自衛隊食堂)18施設45名、5日間(週40時間)の実習を終えました。

最初の5日間の実習を終えた4年生たち、緊張したようですが、学校や医療現場等の実習を通し、栄養士の先生方の仕事を目の当たりにしたことで、たくさんの気づきを得て、大学に戻ってきています。

実習受け入れ先からは、「実習生が来ることで、職場に活気がでてありがたい。若い大学生から刺激をもらえる」というコメントや「早く卒業してもらって現場で頑張ってもらいたい」、「毎年約80名も管理栄養士が育ったら、沖縄県の健康長寿が取り戻せるね」といった、学生の今後の活躍に期待を寄せる声が多く届いています。

夏休みに入って、県及び市の保健所、市町村役所、病院、特別養護老人ホーム、介護老人保健施設など、様々な施設の協力を得て「公衆栄養学」「臨床栄養学」の臨地実習が始まっています。

新型コロナウイルス感染症で大きな負担がかかる中、実習の機会を与えてくださった多くの関係者の皆様に感謝しつつ、この臨地実習を通じて地域のため未来のために活躍する管理栄養士に育ってほしいと切に願っています。

『復帰から50年』沖縄大学と復帰

米軍統治下に置かれた沖縄が日本に復帰して50年、今年は節目の年を迎えています。

沖縄は戦後27年間、米軍の統治下に置かれ、日本国憲法が適用されず、立法・行政・司法といった施政権は米国が握っていました。その施政権が1972年5月15日に日本に返還されることになり、復帰に伴う時代の波に沖縄大学も翻弄された歴史がありました。

今回は沖縄大学と復帰について、福祉文化学科4年の草島真央さんが元学長の仲地博先生にお話をききました。



仲地博 第23代学長

草島真央さん(福祉文化学科4年次)

沖縄大学の誕生

企業家の嘉数昇先生が「教育の機会均等」と「沖縄の人材育成」を目指し、1956年11月に「財団法人嘉数学園」と「沖縄高等学校」を設立申請し、琉球政府より認可されました。57年4月国場祝嶺森に開学した沖縄高校、嘉数学園はそのあとすぐに沖縄短期大学の設立申請を行い、58年6月に開学式を挙行、沖縄大学の前身の誕生となったのです。この58年という年は沖縄の通貨がアメリカドルに切り替えられた年でした。

沖縄大学開学祝賀会で挨拶する嘉数理事長
(1961年5月5日)

キャラウェー高等弁務官(左)、中央は通訳



大学ビル(1962年4月竣工)

統合問題

1970年に入り沖縄の施政権返還の内容が次第に具体化し、米軍支配下で設立された沖縄の大学すべてが日本の大学設置基準を満たしていないことが問題となります。「復帰」にともなう沖縄の大学の設置認可手続きと沖縄の私立大学の設置条件が具体的な問題として浮上しました。早稲田大学の総長も務めた大浜信泉氏(石垣島出身)による新設大学を設立し沖縄大学と当時コザ市にあった国際大学を統合する案が打ち出されるのでした。

存続闘争から再認可へ

沖縄大学学内では一度は統合に賛成し、「学校法人沖縄大学」とする沖縄大学新設構想案が決定されたのですが、教職員や学生の中には統合に反対する意見が根強くあり、大学内での合意形成は困難な状況になりました。

教授会では新設大学設立案と沖縄大学存続案の両案を認め、反対派とともに当時の佐久川政一学長が「沖縄大学存続声明」を発表しました。

結果日本政府は、沖縄の復帰に伴う特別措置に関する政令で、沖縄大学以外の大学・短大は(本土法の)学校教育法による大学・短期大学とみなしましたが、沖縄大学はその規定から外され、「(むこう4年間は)本土法による大学とみなすという暫定措置」「昭和48年度からの新入生募集停止」を閣議決定しました。

それに対して沖縄大学学長は、東京地裁に政令の一部取消・一部無効確認請求を提訴しながら、署名活動を実施し、文部省への抗議行動や県内外への支援要請、「沖縄大学存続をかちとる県民総決起大会」の開催など沖縄大学存続運動を展開していきました。

1973年6月に沖縄大学は文部省に対して沖縄大学設置と沖縄短期大学設置の認可申請書を提出、文部省は翌年2月に正式に認可することとなりました。

— 仲地 「まずは沖縄大学の歴史を知ってほしいです」



—仲地「沖縄大学の歴史を振り返ると1970年代後半までは苦難の時代だったといえるでしょう。『戦後沖縄の困難な歩み』『復帰に伴う廃校の危機』『キャンパス移転問題で学内混乱』と困難が続いたことが伺えます。」

—草島「困難な時期を乗り越えていまの沖縄大学があるということや沖縄大学がなくなっていたかもしれないというのは初めて知りました」

—仲地「学生や教職員そして地域の方々や県民の想いまた県外の著名な方々までもが存続を強く訴えたおかげです。その当時から地域に根差した、また多くの方に愛された大学だったわけです」

—仲地「苦難な時代を乗り越えた沖縄大学は学生の学びの機会をより広げたいと画期的な制度をいくつも構築していきます。代表的なものが国内派遣制度ですが全国にさがけて沖縄大学が初めて取り組んだものです。4年間の大学生活の中で県外の大学で半年〜1年間学べる、県外の大学は学費も高額ですがその負担はない、といった制度を導入したというのは学生の視野を広

げるにはとてもよいものになったと思います」

—仲地「また、地域と学びを共有するという想いから立ち上げた、土曜教養講座、現在585回もの開催回数となっています。これも他の大学にはない沖縄大学の財産となる取り組みといえるでしょう」

—仲地「沖縄大学は学生ファーストの大学といえます。歴代の学長もまずは学生の学びやそれに伴う整備を考へていたと思います。普通、学長室というと、豪華なカーペットや調度品が置かれたりするのですが沖縄大学は一切そのようなことにお金をかけていないんですよ」

—草島「今回、仲地先生から沖縄大学と復帰についてお話を聞き、沖縄大学の歴史を知るとともに、今ある私たちの大学での学びは創設者である嘉数昇先生をはじめとする歴代の学長の方々の『学生へ幅広い教養を』という想いから来ている事がわかりました。また沖縄大学では国内留学制度や資格取得サポートなど学生支援がとても充実しており、学長室の話もそうですがこれらは学生ファーストの大学ならではの環境だと思います。沖縄大学でできる事、沖縄大学でしかできない事を考え、学生生活をより充実したものにしていきたいです。」

—仲地「沖縄大学は生まれながらにして地域とともにある大学でした。特に50年前の復帰のときに廃校になるうとした沖縄大学を多くの住民が支援してくれたことを忘れてはなりません。新生沖縄大学は『地域に根差し、地域に学び、地域と共に生きる開かれた大学』と理念を明確にしました。今こそ、『地方』や『地域』を看板にしたり、理念に取り込む大学は多数ありますが、あの時代地域の大学を標榜した沖縄大学は時代を先取りしていたのです。沖縄大学の地域貢献は、那覇市や沖縄タイムス社から表彰されるだけでなく、国からも文部科学省の私立大学ブランディング事業、内閣府の大学生対流促進事業として評価されているのです。沖縄の大学で琉球大学について、2番目に古い歴史を持ち、創立64年の沖縄大学は、これからますます発展するでしょう。」



仲地博先生は沖縄大学の歴史について歴代の学長などから直接聞き取りの活動もされてきました。沖縄大学が米軍統治下において沖縄で初めての私立大学として公的支援皆無の中、一人の創設者嘉数昇先生が郷土への熱い想いで立ち上げられたこと、沖縄大学の発展が琉球政府の高等教育政策を切り開いたこと、民主的運営が追求されたこと、政府の復帰指針に抗して私学の独立を守ったこと、沖縄大学の存続には多くの人々の支援があったこと、先輩たちが貧しい中希望を抱き勉学に励んだことを、次世代に繋げていければと、「沖縄大学論」の講義(前期木曜日3限)で学生に伝えています。

(「沖縄大学論」とは、歴代学長がコーディネートをする沖縄大学独自の講義です。全学共通科目として毎年開講されています。)

2022

4/1

2022年度入学式

2022年4月1日、673人(編入学、大学院含む)の新入生を沖縄大学に迎え、入学式を行いました。

今年度も新型コロナウイルス感染対策のため学科ごとに会場を分けてメイン会場の式典の様子をオンライン配信しての開催となりました。

式では山代寛学長より「新型コロナウイルス感染症の影響等による不確実な未来に耐える力を養いつつ入学生ひとりひとりの物語を紡いでいってほしい」とエールが贈られました。

今年度の入学生には在学生や卒業生、教職員からのメッセージカードと焼き菓子(ぼろサボ)が贈られました。これはコロナ禍で思うような高校生活が送れなかったであろう入学生たちへ、厳しい状況のなかでも夢を抱き、その夢の一步に沖縄大学での生活を選んで挑戦してもらえたことに「沖縄大学へようこそ!」という想いを込めた贈り物を準備しようと、沖縄大学ボランティアサポートサークル「ぼろサボ」が企画したものです。お菓子は、管理栄養学科3年次の実習内で学生さんが考案したレシピをアレンジして製品化したものとなっています。この入学式だけのために作成されたカードや世界でここだけでしか味わえないお菓子を手にした新入生は「大学生活が楽しみになりました。メッセージカードを贈ってくれた先輩たちとも交流して、仲良くなれたらいいなと思っています」と話していました。



新入生の声



ひとりひとりにメッセージカードをプレゼントしてくれてとても素敵だなと感じました。大学では資格取得にがんばりたいです!

知花 怜奈さん

経法商学科入学生(読谷高校出身)



4年間の大学での経験によって、将来、なににしたいかをきちんと決めていきたいです。英語を極め留学にもチャレンジしたいです。

當山 浩平さん

国際コミュニケーション学科(知念高校出身)



メッセージカードを見て、「ありがたい、すごい、4年間がんばろう!」と思いました。大学のイベントにも自主的に参加し、充実した大学生活を送りたいです。

座安 奈瑠美さん

管理栄養学科(浦添高校出身)



メッセージカードを見て、先輩たち、優しい方が多いんだなと感じました。教員採用試験に現役合格できるよう大学生活にがんばりたいです!

嘉手苺 心愛さん

こども文化学科(宮古高校出身)



メッセージカードも焼き菓子も嬉しかったです。資格取得にがんばります(喜屋武)。人見知んなタイプなので友達づくりがんばります(高原)。韓国留学を目指してがんばります(呉屋)。

高原 心優さん、喜屋武 安純さん、
呉屋 愛瑚さん
福祉文化学科(首里高校出身)

2022

4/7

那覇市社会福祉協議会との包括連携調印式

本学と那覇市社会福祉協議会との包括連携協定調印式を行いました。

本協定では、学生のボランティア活動への派遣等、協力体制の基盤強化が目的となっています。

式では山代寛学長が「本学理念『地域共創・未来共創の大学へ』その使命を地域の中で果たしていくためには、『奉仕』というボランティアな精神が必要不可欠であり、教職員一同、襟を正しこの尊い姿勢に向き合っていきたい」と協定への抱負を述べました。



2022

4/14

『沖縄大学論』、初回ゲストスピーカーは金城敦子さん(がんの子どもを守る会)

選択必修科目である『沖縄大学論』は、大学の自校史のみならず、学生に「沖縄大学で」学ぶ意味を考察させる中で理念・目的を伝える特色ある講義です。

17年目を迎える今年は、新学長山代寛先生がコーディネーターを務め、毎回、ゲストスピーカーをお招きして全15回の講義を行いました。

初回講義(4月14日)は、2019年度に入学した金城有里さんのお母様、敦子さんをお招きしました。

有里さんは、4歳の頃に小児がんを発症し、18歳の若さでこの世を去りました。入院中も時間があれば受験勉強に取り組み沖縄大学を受験し、福祉文化学科に合格を果たしましたが、通うことはできませんでした。

現在、敦子さんは、娘の有里さんが目標としていた、がん患者のことを知ってもらえる活動や病気の子だけでなくその兄弟を支援する活動を行っていて、講義では、少しでも小児がん患者のことを知って理解してほしいと学生たちにお話をしていました。



**2022
4/25** **VRを使って台湾の大学と合同授業
『サバイバル中国語』**

渡邊ゆきこ先生(国際コミュニケーション学科)が担当するサバイバル中国語の講義では、台湾にある輔仁大学との合同授業を行っています。

VR空間を利用して行う合同授業で、沖縄大学と輔仁大学のメンバーが6つのグループに分かれ、交流会(講義以外の時間を活用)を2週間に1回のペースで行っていき、課題を仕上げていきます。交流会では、毎回前半は日本語の時間、後半は中国語の時間として、両方の言語で相互にインタビューを行い、両大学の学生の日本語と中国語の言語運用能力の向上と相互の文化理解を目指しました。

1回目のミッションは、VR空間に集まって相手側の大学の学生の家族構成や家族の職業などをインタビューし合い、その内容を沖縄大学の学生は中国語、輔仁大の学生は日本語でまとめ、互いに意見交換や添削し合ってレポートを完成させるという内容でした。7月までの日程で6回のミッションを熟しました。

コロナ禍、留学が難しい状況でも、異文化体験が体感できるとあって、両大学の学生たちは、VR空間内でアバターを通しての交流を楽しんでいました。

**2022
6/14** **日本初の本格的ソウル・R&B系アーティスト
クック豊元さんを招いてLet's dance!
健康スポーツ福祉専攻2年次合同ゼミ**

福祉文化学科健康スポーツ福祉専攻2年次基礎演習Ⅰの講義は日本のブラックミュージックを開拓した元祖Japanese Soul Manクック豊元さんと後継者として全国で活動をしている渡辺和美さんをお招きして行われました。

日本のソウルミュージック、芸能界で一時代を築いた"レジェンド オブ レジェンド"クック豊元さん、講義冒頭では今年で73歳とは思えない軽快なステップを繰り広げていました。盛り上がりやすい曲にあわせてのダンスは学生たちもすぐに習得していました。

福祉施設では高齢者が昔懐かしいソウルミュージックにあわせてダンスを楽しむということも少なくなく、学生たちにもSoul ダンスを体感してもらい、今後高齢者との会話等にも活かしてもらえたらと合同ゼミで取り組みました。

**2022
6/22** **2022年度
沖縄大学琉球弧研究支援プロジェクト
キックオフミーティングを開催**

沖縄大学では「地域共創・未来共創の大学へ」を理念に掲げ、okidai vision 2028「地域がキャンパス 地域のキャンパス」に向け取り組んでいます。地域研究所ではその実践として学生が実際に現地に足を運び、フィールドワークを通じた学びを奨励する「琉球弧研究支援プロジェクト」を実施しています。今年で15回目となるプロジェクトのスタートとなる「キックオフミーティング」を6月22日に沖縄大学アネックス共創館で開催しました。今年度は、個人応募5件、グループ応募5件、計10件(学生総数20名)の応募があり、学生たちは今後、地域に対する理解を深め、また研究成果発表会を通してプレゼンテーション能力を磨いていきます。自らの足元である地域の課題について学び考えることのできる人材育成を目指しています。

**2022
4/26** **「5.15復帰50年を考える」我部ゼミ**

沖縄戦の記憶と継承や戦後思想史を専門とする経法商学科我部先生の3年次のゼミでは4月、5月は『復帰50年を迎える沖縄について考える』をテーマにした講義が行われました。

4月26日の講義ではひめゆり学徒隊の引率教師を勤め戦後沖縄の平和運動に尽力した仲宗根政善さんの1972年当時の日記を読んだ意見交換を行いました。

5月6日の講義では沖縄近現代思想史研究者で本学教員だった故・屋嘉比収さんの著書『沖縄戦、米軍占領史を学びなおす』を読み、戦後に起こったコザ暴動と沖縄戦の記憶の想起から歴史的記憶の継承について意見交換しました。

学生たちが、沖縄の問題を自分事として考え、沖縄の問題解決にはなにが必要かを考えていければという趣旨での講義に、学生たちは、真剣に取り組んでいました。

また同日、NHKの撮影も行われ、講義の様子は5月12日のNHKの21時の全国ニュースで特集として放送されました。

**2022
6/17** **戦没者の名前を読み上げるプロジェクト
学生たち参加**

慰霊の日を前に「沖縄『平和の礎』名前を読み上げる集い」に学内でも学生や先生たちが活動に参加しました。

6月17日13時から成定洋子先生(経法商学科)の2年次、3年次のゼミ生が読み上げを行いました。2年次の大兼久楽今(らな)さんは、曾祖父が沖縄戦でなくなり、この日、曾祖父の名前(大兼久徳盛さん)を読み上げました。楽今さんは、読み上げ後、「今回、戦没者の読み上げに参加して戦争は二度としてはいけないと強く思いました。また、今私たちがいるのは祖父母たちが生き残ってくれたからで、今があることに幸せを感じました。将来教師になれた際には、こども達に戦争の恐ろしさを伝えていきたいと思いました」と感想を話していました。

参加した学生からは「貴重な機会を得た」という感想や「読み上げのリストに載っている情報は決して多くはないけれど、亡くなった年齢や出身地と亡くなった場所等からいろいろ感じることもある」と戦争がどれほど悲惨なものだったか、ゼミ生それぞれが祖父母から聞いた沖縄戦を共有する場面もありました。

**2022
6/16** **盛口満先生講義「子どもと自然観察」**

学生から「面白い」と評価の高い盛口先生(こども文化学科)の講義。6月16日の講義では、ソテツの種を使つての笛づくりを体験していました。種の中を空洞にする作業に、学生たちは悪戦苦闘の様子でしたが、どうにか時間内に完成した笛からは、個性的な音色が響き渡っていました。



News & Topics

『単位互換制度を開始して43年！今年は9人の学生が沖縄大学で学んでいます』

沖縄大学が全国の大学に先駆けて1979年から取り組んできている国内派遣留学制度、昨年は新型コロナウイルスの影響で1年間中止となりましたが、今年は4月から受け入れを再開しています。

島口 華穂さん(京都精華大学文学部3年)

大学2年次の頃から「南島文学」「おもろそうし」、その中でも歌謡について興味を持ち、本土とは違う沖縄の文化等に心惹かれるようになりました。指導教員の先生も沖縄の大学出身なこともあり、沖縄に行き人との出会いや空気感を体験できると派遣留学を決めました。

沖縄にきてからは、沖縄の魅力をひしひしと感じています。時間があれば、歌碑めぐりをしたり、琉歌に出てくる植物やコロナ禍ということもあり抱痛歌にも興味を持ち研究をしているところです。

将来の夢は、大学院へいき、南島文学をより学び深めていきたいという希望もありますが、就職も視野に入れています。前期のみの派遣生活なので、残りの時間は離島等にも足を運び琉歌碑などを巡りたいと思います。



石井 克彦さん(法政大学文学部3年)

国内留学を決めた最大の理由は、以前から基地問題に関心を持っていたからです。その原点は、実家の近くにある米軍・自衛隊の厚木基地です。騒音を含め、日常の中で基地の存在を感じる地域で暮らす中で、ニュースで見た普天間飛行場移設問題を他人事とは思えず、それ以来、沖縄の基地について関心を持って、調べたり考えたりしてきました。現在は、基地問題だけでなく、沖縄地域の歴史・文化・社会事情全般について学びたいと思っています。

前田ゼミでは、史跡等のフィールドワークを交えながら、琉球史を学んでいます。

卒論では、統計データや文献資料などを用いながら、宜野湾市やその周辺地域の都市形成・土地利用の歴史と現状を分析しようと考えています。

卒論執筆の他に、「抜粋版バスマップ」の製作を予定しています。各地を見て回る際には路線バスを利用しています。その際、(様々な案内は試みられているのですが)複雑なバス路線を理解し、乗りこなすのは、なかなか難しいと感じています。そこで、本数が多い路線を抜き出し、分かりやすく示した「抜粋版バスマップ」を作れたらと考えています。



(中央:石井克彦さん)



玉木千賀子ゼミ 聞き書き本制作 今年も学科の学生にも講座開催

福祉文化学科玉木千賀子先生のゼミ生が毎年取り組んでいる『聞き書き本』活動は、今年で6年目を迎えます。これまでの活動を通して、他者(語り手の方)を深く理解するだけでなく、地域の歴史や文化の理解、高齢者の方々との交流、新たなボランティアの立ち上げなど、当初の目標を超えた学びや取り組みが生まれました。

今年もゼミ生だけでなく福祉文化学科の学生にも聞き書きや本の制作についての理解を深めてもらうために講座も開催しています。

第一回の講座は、兵庫県から酒井成美さんをお招きして、玉木ゼミを含めて約20名の学生たちが参加。診療所に勤める酒井さんは、利用者のお話を聞く活動を10年ほど前にスタートし、全国の聞き書きを学ぶ会にも所属しているかたです。沖縄戦体験者にお話を聞く活動も行っている酒井さん、玉木ゼミの活動をマスコミ報道で知り、なにか力になればと、今回の講座でも講師を務めていただくことになりました。

参加した学生たちは、聞き書きの意義や手法についての話に、これからの活動に多くのヒントを得たようでした。第二回は実際に語り手の方をお招きして聞き書きの実践を行いました。講座は8月までの全3回の開催予定で、本を完成させ、完成した本の講評なども行っていく予定です。



(玉城秋さんへの贈呈式7月14日)



(玉木ゼミ4・3年次合同ゼミ7月7日)

昨年聞き書きを行った現4年次の本が完成し、翌週に取材対象者へ本が贈呈されました。

長寿県復活を目指して⑨

野菜食べていますか？見た目も美味しく！
その先に健康が！

健康栄養学部

管理栄養学科

講師 山川 房江



皆さん、野菜料理食べていますか。朝食はコンビニおにぎり、昼食はカップ麺、夕食は何食べたかな。なんてことは無いですか。

野菜の摂取の推奨量は350gですが、平成28年度の沖縄県民栄養調査の結果から、沖縄県の野菜の摂取量は男性276g、女性269gで全国平均値と比べても男女ともに少なく、特に20〜40歳代は最も少ないという結果でした。

野菜はビタミン・ミネラル・食物繊維の供給源であり、特に私たちの身近にある島野菜、古くから沖縄にて栽培されてきた伝統野菜を指しますが、亜熱帯地域に位置している独特の土地で育つため、ミネラルやカルシウムなど栄養素が豊富です。

野菜を食べる量が多いと死亡リスクを減らすことが報告されており、1日当たり350〜400gの摂取で25〜30%程リスクが低下した(出典:BMJ 2014 Jul 29;349:g490)という報告もあります。

ライフステージの変化で食卓の料理の品数にも変化があります。家族そろって食事をする機会が減ると料理の品数が減り、使用する食材の種類も減少、摂取量の減少にも繋がっています。だからこそ、食事抜きはせず、毎食、両



出典：沖縄県栄養士会

手のひらに乗る量(野菜…これが1度1食分に相当)を摂るようにします。そうすると、推奨量350gは難なくクリアできます。バランス良くつて聞きますよね。野菜に含まれている第七の栄養素ともいわれるファイトケミカル、緑色系はβカロテン、赤色系はアントシアニン、紫色系はポリフェノール：などなど含みます。食卓が華やぐよう、彩り良くなるよう、いつもと違う色の野菜を選んでみませんか。野菜料理、味だけでなく彩りも楽しみたい。食事を楽しみながら、その先に健康が。参考になれば幸いです。

2021年度決算について

※千円未満四捨五入

資金収支計算書

収入の部 (単位 千円)			
科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金収入	1,972,000	1,918,519	53,481
手数料収入	35,315	33,308	2,006
寄付金収入	33,600	27,993	5,607
補助金収入	573,507	565,986	7,521
資産売却収入	85,000	623	84,377
付随事業・収益事業収入	38,829	44,508	△ 5,679
受取利息・配当金収入	1,727	1,667	60
雑収入	76,363	70,667	5,696
借入金等収入	0	0	0
前受金収入	841,051	966,302	△ 125,251
その他の収入	59,058	68,427	△ 9,369
資金収入調整勘定	△ 999,707	△ 957,474	△ 42,233
前年度繰越支払資金	2,063,052	2,362,621	
収入の部合計	4,779,795	5,103,148	△ 323,353

支出の部 (単位 千円)			
科目	予算	決算	差異
人件費支出	1,434,679	1,409,217	25,462
教育研究経費支出	914,335	866,936	47,399
管理経費支出	106,467	94,755	11,712
借入金等利息支出	9,495	9,925	△ 430
借入金等返済支出	71,600	71,600	0
施設関係支出	156,202	110,229	45,973
設備関係支出	128,796	54,917	73,879
資産運用支出	31,000	40,401	△ 9,401
その他の支出	63,736	78,449	△ 14,713
予備費	21,181	-	21,181
資金支出調整勘定	△ 111,523	△ 70,586	△ 40,937
翌年度繰越支払資金	1,966,190	2,437,306	△ 471,116
支出の部合計	4,779,795	5,103,148	△ 323,353

貸借対照表

資産の部 (単位 千円)			
科目	本年度末	前年度末	増減
固定資産	5,782,285	5,820,425	△ 38,140
有形固定資産	5,131,821	5,197,054	△ 65,233
特定資産	561,499	524,955	36,544
その他の固定資産	88,965	98,415	△ 9,450
流動資産	2,501,393	2,429,560	71,833
資産合計	8,283,678	8,249,984	33,694

負債の部・純資産の部 (単位 千円)			
科目	本年度末	前年度末	増減
固定負債	1,126,059	1,209,454	△ 83,395
流動負債	1,177,224	1,105,509	71,716
負債合計	2,303,283	2,314,963	△ 11,679
基本金	7,582,016	7,393,831	188,185
繰越収支差額	△ 1,601,621	△ 1,458,809	△ 142,812
純資産合計	5,980,394	5,935,022	45,372
負債及び純資産の部合計	8,283,678	8,249,984	33,694



2022年度予算について

資金収支予算書

収入の部 (単位 千円)			
科目	本年度予算	前年度予算	増・減
学生生徒等納付金収入	2,010,000	1,972,000	38,000
手数料収入	35,801	35,315	486
寄付金収入	29,548	33,600	△ 4,052
補助金収入	604,517	573,507	31,010
資産売却収入	85,191	85,000	191
付随事業・収益事業収入	36,523	38,829	△ 2,306
受取利息・配当金収入	1,308	1,727	△ 419
雑収入	63,690	76,363	△ 12,673
借入金等収入	108,000	0	108,000
前受金収入	950,940	841,051	109,889
その他の収入	49,349	59,058	△ 9,709
資金収入調整勘定	△ 945,256	△ 999,707	54,451
前年度繰越支払資金	1,966,190	2,063,052	△ 96,862
収入の部合計	4,995,801	4,779,795	216,006

支出の部 (単位 千円)			
科目	本年度予算	前年度予算	増・減
人件費支出	1,414,736	1,436,679	△ 19,943
教育研究経費支出	948,126	914,335	33,791
管理経費支出	102,297	106,467	△ 4,170
借入金等利息支出	9,176	9,495	△ 319
借入金等返済支出	85,700	71,600	14,100
施設関係支出	249,664	156,202	93,462
設備関係支出	42,281	128,796	△ 86,515
資産運用支出	31,000	31,000	0
その他の支出	67,986	63,736	4,250
予備費	20,000	8,819	11,181
資金支出調整勘定	△ 15,940	△ 111,523	95,583
翌年度繰越支払資金	2,040,775	1,966,190	74,585
支出の部合計	4,995,801	4,779,795	216,006

経常的な収支バランス

臨時的な収支バランス

事業活動収支予算書

事業活動収支予算書 (単位 千円)				
事業活動収支	科目	本年度予算	前年度予算	増・減
	事業活動収入の部	2,010,000	1,972,000	38,000
	手数料	35,801	35,315	486
	寄付金	29,548	33,600	△ 4,052
	経常費等補助金	604,517	573,507	31,010
	付随事業収入	36,523	38,829	△ 2,306
	雑収入	63,690	76,363	△ 12,673
	教育活動収入計	2,780,079	2,729,614	50,465
事業活動支出の部	科目	1,418,574	1,432,137	△ 13,563
	人件費	1,161,504	1,121,787	39,717
	教育研究経費	108,373	110,999	△ 2,626
	管理経費	2,688,451	2,664,922	23,529
	教育活動支出計	91,628	64,692	26,936
	教育活動収支差額	△ 7,868	△ 7,768	△ 100
教育活動外収支	科目	1,308	1,727	△ 419
	受取利息・配当金	0	0	0
	その他の教育活動外収入	1,308	1,727	△ 419
	教育活動外収入計	9,176	9,495	△ 319
事業活動外支出の部	科目	0	0	0
	借入金等利息	0	0	0
	その他の教育活動外支出	9,176	9,495	△ 319
	教育活動外支出計	83,760	56,924	26,836
	教育活動外収支差額	△ 43,118	△ 47,364	4,246
	経常収支差額	20,000	22,741	△ 2,741
特別収支	科目	4,246	0	4,246
	その他の特別収入	4,246	0	4,246
	特別収入計	47,364	47,364	0
	事業活動収支差額	△ 43,118	△ 47,364	4,246
	特別収支差額	20,000	22,741	△ 2,741
	(予備費)	20,642	△ 13,181	33,823
	基本金組入前当年度収支差額	△ 117,338	△ 67,936	△ 49,402
	基本金組入額合計	△ 96,696	△ 81,117	△ 15,579
	当年度収支差額	△ 1,750,875	△ 1,669,758	△ 81,117
	前年度繰越収支差額	△ 1,847,571	△ 1,750,875	△ 96,696
	翌年度繰越収支差額			
	(参考)			
	事業活動収入計	2,785,633	2,731,341	54,292
	事業活動支出計	2,764,991	2,744,522	20,469

教育事業での収支

教育事業外の収支

研究のひろば

時系列データ分析によるリスクマネジメント

はじめまして、経法商学科の徐です。大学院では国際金融を専攻し、特に為替レートについて研究してきました。その後、同様の研究手法をFX市場だけではなく、様々な金融市場や市場間のことも分析できるようになり、研究分野をさらに広げることができました。これを背景として、近年話題となっているディープレーニングを含め、先端工学的な分析手法を模索しつつ、実証研究を行っています。

直近の研究の話を少ししますが、2つに分けることをお許しください。1つ目は、ビットコイン（以下BTC）とゴールド（以下GOLD）のリスクヘッジ効果の比較研究です。During and Afterコロナの時期において、BTC（もしくはGOLD）がG 7の代表的な株式指数をどれくらいリスク回避できるかを定量測定しました。結果の1つは、空売りしないことを前提として、特にDuringコロナ時期の週一回の取引頻度において、BTCのリスクヘッジ効果がGOLDより13%高かったことを示しています。長期的な取引においては、GOLDのリスクヘッジ効果がより高いことを含め、我々の分析はGOLDへの長期的投資はリスク回避できることを再び検証できた上、短期的な投資ポートフォリオにBTCも入れるべきだということにまとめられます。さらに、最近ではBTC価格が下落しつつあるが、Afterコロナの分析に、短期的な投資価値が依然としてあるということも興味深いです。

	Covid19-Sample		Post-Sample	
	BTC	GOLD	BTC	GOLD
less than 4 days	0.29	0.21	0.28	0.20
4-8 days	0.31	0.18	0.30	0.20
8-16 days	0.41	0.29	0.39	0.29
16-32 days	0.25	0.26	0.24	0.27
32-64 days	0.43	0.30	0.43	0.34
64-128 days	0.01	0.13	0.02	0.08
128-256 days	0.02	0.02	0.00	0.00
more than 256 days	0.00	0.51	0.00	0.13

表1. BTC-DJIとGOLD-DJIのリスクヘッジ効果
(During and Afterコロナの時期)

2つ目の研究はあくまでもアイデアですが、この場で概要を紹介しましょう。皆さんご存知の通り、株式市場は良いニュース・悪いニュースの影響を受けて、価格が変動してしまうという説があります。特に2022年2月24日からウクライナ侵攻により、ロシア産原油の輸入禁止政策などで、原油価格が高まってきました。さらに、During and Afterコロナの時期に様々な景気刺激策が行われましたが、インフレを抑制するなどのために、FRBが大幅な利上げを決定しました。以上のことはどれくらい金融市場に影響を与えているか、今までのリスクヘッジ資産がどう変化していくのかを、これから研究して行きたいと思います。

経法商学部 経法商学科 講師

徐 磊



人文学部
国際コミュニケーション学科 教授
渡邊 ゆきこ

わがゼミ生

修得した中国語を、 実践的活動へ繋げて

中国語コミュニケーションコースの4年生の専門演習では、鄧守信先生が編集された英語の中国語類義語用法辞典『Chinese Synonyms Usage Dictionary (漢語近義詞用法詞典)』の日本語訳をする作業を全員で行っています。

本書は約20年前、台湾と中国、アメリカ、カナダの研究者が協力して作ったもので、類義語辞典が少ない中国語の分野では画期的な辞書として注目されました。是非授業にも活用したかったのですが英語で書かれているためそれも難しく、日本語に翻訳してみても

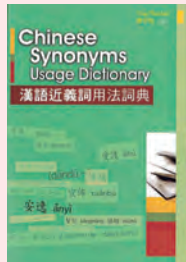
うかと考え、出版後間もなく日本語への翻訳権をいただいた経緯があります。その後、4年生のゼミで数年翻訳を続けましたが、英語と中国語の両方の翻訳という作業はゼミ生の負担が大き過ぎたようで、作業は中断を余儀なくされました。

作業を再開したきっかけは、2019年の本書の再版でした。出版後長い時間が経っていますが、中国語の類義語「活用辞典」はいまだばならない状態です。再版は正に本書の有用性がいまだ存在していることに他ならないと判断しました。もう一つには、いまだ実用レベルとはいえない側面はあるものの、近年飛躍的に性能を向上させた翻訳ソフトの存在です。AIの翻訳を鵜呑みにするのではなく、内容を適正に修正して使える訳を作っていくという技術は、今こそ必要とされているのではないかと考えました。負担が軽減されたことで、客観的に内容を見る余裕もでき、マインドマップを活用して記述内容を整理し、視覚的にその用法や意味の違いを理解するというも行っています。

このゼミは1年生の問題発見演習から1人の落伍者を出すこともなく、とても仲のいいクラスで団結力はピカ一です。また、協力して社会貢献もしており、昨年の後期は那覇市の社会福祉協議会の要請を受け、ゼミ所属の7人が中国や香港から那覇に移住されたご子女のために、市内の小学校で毎週2回ボランティア通訳を務めました。いろいろ苦労もあったようですが、最後の日には泣いて別れを惜しむほど心を通わせていたようです。



辞書の見開き



翻訳している英語版中国語類義語活用辞典の表紙



市内小学校でのボランティアの様子

卒業生の活躍を紹介!

あの人はいま

卒業生の活躍を紹介する企画『あの人はいま』。

今回は沖縄の風土を生かした建築技法、赤瓦漆喰施工職人として働く堀切元気さんを紹介します。

堀切さんは首里城火災後、現場で瓦の回収作業にあたり、当時、使われていた瓦について調査等も行いました。赤瓦や漆喰といった沖縄独自の建築様式を絶やすことなく職人の技を守り続けていけたらと語る堀切さんにお話を伺いました。



Q 瓦施工職人になるきっかけなどについて

前職は、IT関連企業に就職しましたが、もっと情熱を持って取り組めるような、やりがいのある仕事がしたいと思っていたときに、現在の沖縄県琉球赤瓦漆喰施工協同組合の理事長に出会うご縁があり、就職を決めました。まったく知らなかった、瓦や漆喰といった沖縄独自の作り方を知り、すごいなと感じて、絶やすことなく、この手法を受け継いでいけたらなと思っています。

Q 沖縄独自の技法とは、瓦・漆喰施工というお仕事について

現在の本土の屋根は瓦を置いてビス止め等をして固定します。沖縄は本土に比べて台風も多いので民家等でも瓦を置いたあとに漆喰を塗り固定するんです。本土で漆喰を塗るというのは神社や仏閣、お城ぐらいです。

瓦を造る職人さんがいて、瓦を屋根に置き漆喰を塗っていくという施工の職人さんがいる、私は後者ですが、瓦の品質や作り方等について県外に比べて勉強したりもしています。

民家の屋根づくりだけでなく、県内の文化財や先日は海洋博記念公園の茅葺き屋根の補修等も行いました。設計図等も残っていませんから、解体してやりながら再現していく・・・経験がものをいう世界です。作業にはチーム(2~4人)であたります。細かい作業ばかりですがとても奥深い作業でやりがいを感じます。

Q 首里城火災のときに

火災後、使える瓦の分別作業や漆喰を外す作業等、ボランティアも募り作業にあたり、その運営等も担当しました。

首里城に使われていた瓦を見ると、当時は約20~30種類の瓦が使われていたことやその当時の最高の技術で作った瓦だったこともわかりました。

現在県内では5~6種類の瓦しか使われていないなかで、当時はかなりの瓦を使って再建されたということがわかり驚きました。

組合として、品質についても調査し、県に再建にあたり提案等も行いました。

Q 目標は

技術としてはまだまだ未熟なので、まずは漆喰をきちんと塗れるようになること、勉強を重ねて一人前になることが目標です。

この世界、後継者不足なども課題です。そんななか、期待も大きく、プレッシャーを感じていますが、自分らしく気負わずに、楽しく、沖縄独自の建築様式を絶やすことなく、努めていきたいです。

瓦のことや漆喰のことを知る機会として、ワークショップ等も行っている、是非多くの方に関心をもってもらえたらなとも思います。



堀切 元気 さん

- 2008 ■ 法学部法経学科入学
(Q大学時代について
「1・2年次にバンド活動に励みすぎて、単位の修得や休学して学費を貯めなければならなくなり、卒業に5年かかりました。教師になりたいと教職を履修したり、沖大祭実行委員長を務めたり、いろいろチャレンジすることで多くの人との出会いが沖縄大学ではありました。良い思い出です」)
- 2013 ■ 卒業後、沖縄大学教職支援センターで非常勤職員として働く
- 2017 ■ IT関連会社へ就職
- 2020 ■ 沖縄県琉球赤瓦漆喰施工協同組合に就職



堀切さんを知る大学の友人のコメント

彼は琉球赤瓦施工職人として首里城の再建に関わる為、日々努力しています。

彼の活躍は、ニュース等でも報道されており、報道を見て沖縄のために進んだ彼の人生の選択に誇らしく思います。沖大在学中も沖大祭実行委員長を務め、自己のためではなく、皆のために努力を惜しまない人柄であったと思います。

2014年3月法経学科卒業 原 佳史さん





沖縄大学校章

1964年当時学生であった諸見里安次さんが発案したもので、周囲の円は平和を意味し、円の下にある模様は1部(昼間部)と2部(夜間部)の学生を示す2本のペンを表しています。平和のもとで、学生が沖縄大学で研鑽を積んでほしいという願いが込められています。諸見里さんは大学卒業後本学で職員として務め、琉球古典音楽野村流伝統音楽協会役員等を務められています。

沖大の魅力に迫る 沖大散策 vol.8

『沖縄大学ロゴマーク 大学の価値を高めるシンボルマーク エトセトラ』

沖縄大学にある貴重なモノやアート作品を紹介する企画『沖大散策』、今回は沖縄大学のロゴマークの移り変わりについて紹介します。著名な方々が本学の設立の理念や校風を盛り込み、今後の発展を願ってロゴや文字に想いを込めて、制作して下さったものばかりです。

沖縄大学

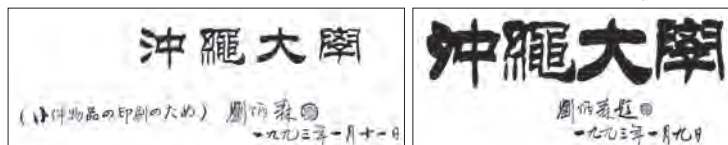
(使用期間:2002年~)

沖縄を代表する書家、豊平峰雲さんの作品です。(詳しくは左ページに紹介)

沖縄大卒

(使用期間:1993~2002年)

中国の書家、劉炳森さんが、土曜教養講座の講師として1993年に来学された際に書いていただいた筆文字です。当時のことを覚えている教職員が現在はおらず、詳細はわからない状況ですが保管庫に残っている現物の書は2つあり1月9日に書かれた太文字の作品と1月11日に書かれた細い文字の作品が残されています。印刷物等に利用する場合は文字の細いタイプを利用してほしいとのことで2枚の書を納めてくださった様子が伺えます。(劉炳森さんは本学図書館館長室に飾られている書も手掛けられ、広報誌154号で紹介させていただきました。)



書家 劉炳森さん(1937-2005)
 1937年中国上海市に生まれる
 1962年北京芸術学院卒業
 1981年中国書法家協会常務理事
 中国を代表する最高峰の書家の一人として、書道を通じて日本との交流にも貢献された。

沖縄大学

(使用期間:2020年~)

2020年6月に誕生した新ロゴマーク。ビジュアル・アイデンティティ設計を(株)ロフトワーク・アートディレクターの小川敦子さん、デザインは(株)アレックスクリエイティブ本田篤司さんが制作し、風を起こす「カジマヤー」をモチーフに選び、知と人の交流拠点となり、地域と共に生きながら、沖縄の未来の社会を創りあげていく本学の理念を核として、今後益々発展していくようにとの想いをこめたロゴマークになっています。現在、様々な出版物やサークル・部のユニフォームにも展開されていて、大学のイメージアップに一役かっています。

多くの人たちが沖縄大学に想いを寄せ、大学を象徴し、より広く大学の存在意義をPRできるようにと、作品を仕上げてくださったことは記憶にとどめておく必要があります。



沖縄大学

(使用期間:2002年~)



本館ビルの正面に掲げられた「沖縄大学」の筆文字は、県内の書道の会派を束ねる沖縄県書作家協会毛筆会会長を20年以上も務められた沖縄を代表する書家、豊平峰雲さんが手掛けた作品です。残念ながら豊平先生は2019年に逝去されました。お弟子さんでもある娘の豊平美奈子さんに当時のことについてお話を伺いました。

「先生から沖縄大学学長室に伺うときいて、2001年1月3日私も同行しました。キャンパスの正門前の整備に伴い、看板の文字を書いてほしいという依頼を受けてのことでした。35センチ×140センチの紙に縦書き、横書きのもの、10数点の作品をお持ちして、当時の学長(狩俣真彦先生)と文字の選定を行いました。先生は『沖縄の太陽のような明るさを表現した』と話していました。また沖縄大学がどういう大学かをきちんと理解して文字にしたと聞いています。学長はじめ先生方の想いや熱意、沖縄大学の校風を現すような文字、10数枚の中から1つの書を選んでと思います。文字を提供し、貴学が看板や出版物等に効果的に使っていただけていることに対し、先生はとても喜んでいました。正門の看板は、人の目の高さで親しみやすく、多くの人の目に触れることができるものであることや、本館ビルの建設に伴い、大きく金色の文字で看板が設置され、私自身もこのように父の文字を常に見ることができることをとても嬉しく思っています。先生は謙虚な方でしたので、一度大学側から講演依頼のお話も頂きましたが、お断りした経緯がありました。もし講演していたら、文字に込めた想いについても、もっと詳しくお話されたことなのでしょうが、それは叶わずでしたね。」

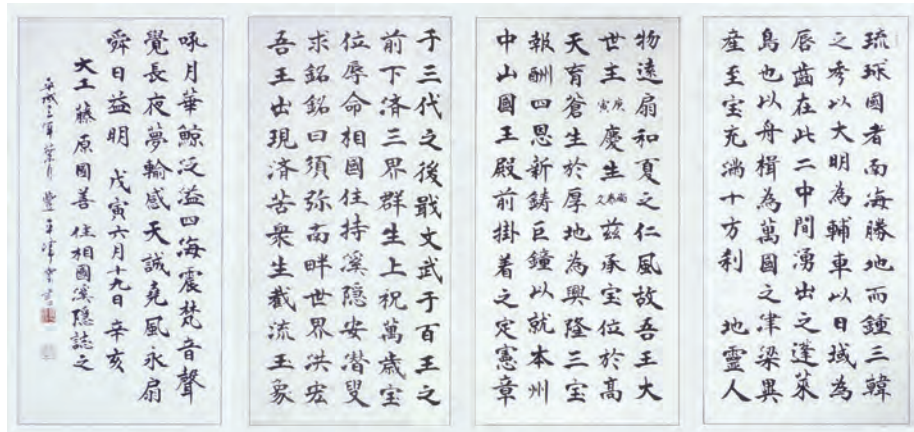
豊平先生の代表的な作品は、沖縄県知事室の応接室の屏風、沖縄都市モノレールの看板や石碑等県内に多く残っています。豊平先生の作品集は本学図書館にも所蔵されています。是非、この機会に手に取って見てください。



とよひら ほううん
書家 豊平 峰雲さん (1942-2019)



1942年石垣市新川生まれ
漢字を吉田栖堂・定歳静山に、近代詩文書を吉田成堂に師事
沖縄県文化功労章受章
西安碑林博物館名誉教授
沖展・毎日展・玄海展・西安碑林国際臨書展など国内外の審査会員を長年務められた。



新ロゴマーク完成後も、格式や伝統を重んじる場面(入学式や卒業式等の式典、学位記、校旗、正門等)で引き続き使用しています。

2023年度 沖縄大学 入試日程

	願書受付期間(消印有効)	入試日
総合型選抜 (プレゼン型:10月)	2022年 9月27日(火)～10月3日(月)	2022年 10月15日(土)～10月17日(月)
総合型選抜 (講義型:12月)	2022年 12月5日(月)～12月9日(金)	2022年 12月17日(土)～12月18日(日)
	願書受付期間(消印有効)	入試日
学校推薦型選抜	2022年 11月7日(月)～11月11日(金)	2022年 11月26日(土)～11月27日(日)
一般選抜(前期)	2023年 1月10日(火)～1月19日(木)	2023年 2月4日(土)～2月6日(月)
大学入学共通 テスト利用入試 (前期)		2023年 1月14日(土)～1月15日(日)
一般選抜(中期)	2023年 2月6日(月)～2月15日(水)	2023年 2月25日(土)～2月26日(日)
大学入学共通 テスト利用入試 (中期)		2023年 1月14日(土)～1月15日(日)
一般選抜(後期)	2023年 2月22日(水)～2月28日(火)	2023年 3月7日(火)
大学入学共通 テスト利用入試 (後期)		2023年 1月14日(土)～1月15日(日)

2023年度 沖縄大学 大学院 入試日程

	願書受付期間(必着)	入試日
AO入試 (社会人特別)	2022年 9月1日(木)～ 2023年 1月18日(水)	第一次面談日は志願者と調整※1
一般入試 (10月)	2022年 9月5日(月)～9月12日(月)	2022年 10月1日(土)
一般入試 (2月)	2023年 1月23日(月)～1月30日(月)	2023年 2月18日(土)

※1「出願可」の通知後、原則2週間以内に出願すること

2023年度 沖縄大学 募集定員

入試種別 学科・専攻	総合型 選抜 (10月)	学校推薦型選抜		総合型 選抜 (12月)	一般選抜(前期)		一般選抜(中期)		一般選抜(後期)		合計
		専門・総合 学科特別			一般	共通テスト 利用	一般	共通テスト 利用	一般	共通テスト 利用	
経法商	55	60	5	25	24	28	10	7	3	3	220
国際コミュニケーション	20	20	2	10	10	7	5	2	2	2	80
福祉文化(社会福祉専攻)	30	18	2	5	5	4	4	3	2	2	75
福祉文化(健康スポーツ福祉専攻)	10	20		3	7	3		2			45
こども文化		20			14	10	4	2			50
管理栄養	10	37	2	5	12	7	5	2			80
合計	125	175	11	48	72	59	28	18	7	7	550



大学院

現代沖縄研究科

地域経営専攻 …… 5名

沖縄・東アジア

地域研究専攻 …… 5名

保護者懇談会の開催について

本学では、学生の学業や学生生活などについて、教職員と保護者との個別面談を実施し、きめ細かな学生支援を行って参りたいと考え、保護者懇談会を開催致します。

今年度は新型コロナウイルス感染症予防の対策を図り、対面での面談の実施を予定しております。参加をご希望の方はご自宅に郵送した「沖縄大学保護者懇談会のご案内」をご確認頂き、参加申し込みを行って頂きますようお願い致します。

なお、新型コロナウイルス感染症の状況次第で中止または開催方法を変更する場合も考えられます。開催については沖縄大学 HP をご確認くださいませよう何卒よろしくお願い致します。

<久米島地区> 9月 1日(木) ホテル久米アイランド
<宮古地区> 9月 7日(水) ホテルアトールエメラルド宮古島
<八重山地区> 9月 8日(木) アートホテル石垣島
<北部地区> 9月 13日(火) ホテルゆがひいん おきなわ

※上記会場、面談会 ▶ 18:00～19:00

<中南部地区> 9月 17日(土) 沖縄大学
※面談会 ▶ 13:00～16:30

お問い合わせ先

学生支援課
098-832-7182

沖縄大学への寄附について

OKIDAIのわプロジェクト

寄附金で
沖大生を支援しよう

寄附金は学内整備

(学びの場・憩いの場を増やします)や

学生生活のために使わせていただきます。

寄付の申し込み等は本学ホームページを
ご覧ください。

さぼーと + おうえん = GIFTTE

メール: keiei@okinawa-u.ac.jp

FAX: 098-832-0083

郵送先: 〒902-8521

沖縄県那覇市宇国場555番地 沖縄大学経営企画室 宛

